

須崎市図書館等複合施設整備事業

技術提案書 ＜概要版＞

- 注1) 技術提案書がそのまま設計案になるものではありません。
- 注2) 公開する技術提案書は、無断で転載することを禁止します。

① 本施設の基本的な考え方

基本コンセプトを十分に理解した「4つの役割」を提案します。

須崎市図書館等複合施設「基本計画」に記載されている、①施設全体 ②図書館 ③防災 ④複合施設のコンセプトを具体化にどう反映していくか“わかりやすい指針”を示します。各々の機能を超えて“融合”し、まちづくりにつながる考え方を提案します。

須崎市図書館等複合施設 [基本計画] + [要求水準書]



須崎市図書館等複合施設 “4つ”のコンセプト

令和3年12月策定「基本計画」コンセプト図

設計の基本的な考え方

施設

情報・交流・テクノロジー新たな出会いへ導くみんなの灯台
人々を迎え入れる『大きなひろば』

・奥四万十地域の玄関口である須崎に、市内外の多くの人を迎え入れ、集い、賑わう『大きなひろば』

防災

いのちを守るために学び、行動できる場所
城山と呼応した安全のシンボル「大らかな屋根」

・避難拠点(城山)と呼応した「大らかな屋根」は“安全のシンボル”となります。また避難所へと視線を誘導します。

図書

情報と人、人と人の出会いを生み出す図書館
『須崎 commons』の創出

・人的支援、コンテンツ、活動の場が近接した『須崎 commons』が、新しい学びや交流、出会いを生み出します。

複合

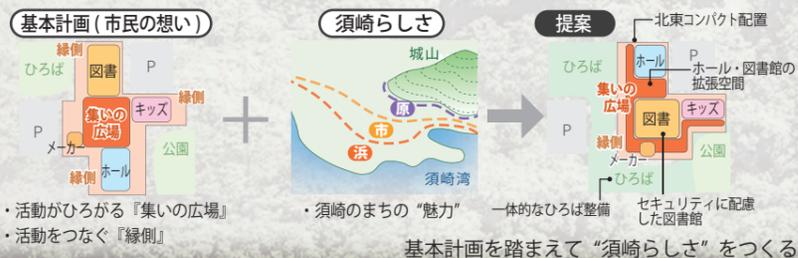
みんなの居場所をつなぐ“縁側のある施設”
『みんなのエンガワ』

・誰もがここにいていいと心から思える多様な居場所「みんなのエンガワ」を創ります。

基本コンセプトを踏まえた4つの役割

これまで積み重ねてきた“市民の想い”を大切にします。

- ・「にぎやかな図書館を考える」市民ワークショップに始まり、基本構想～計画とこれまで市民と積み重ねてきた検討を大切にしながら私たちがなりの提案を行います。



地形やまちの構成を取り込み、活かす建築

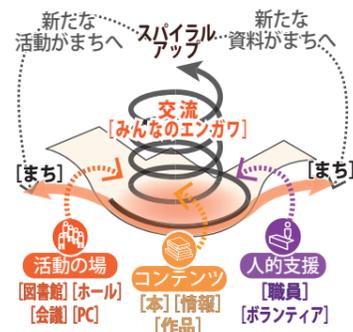


施設のインテリアイメージ：図書館空間を望む

4 平面計画の基本的な考え方 「3つの層状構成」が融合を促す

POINT.1

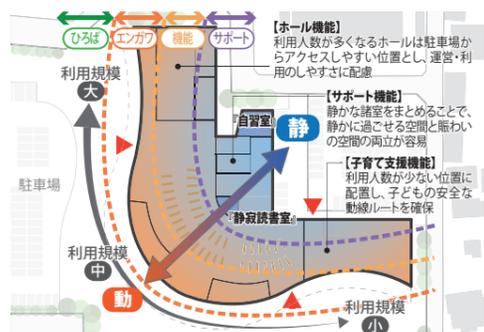
知的活動の循環『須崎 commons』



- 「知の拠点」、「交流拠点」づくりを通じた市民の知的・文化的活動として、建築を訪れた人々が主体的に学び、交流する場＝『須崎 commons』を創ります。
- 図書館の「本」や「資料」と職員・ボランティアの方々（人的支援）を近接化することで「新たな学び・交流」を創出します。

POINT.2

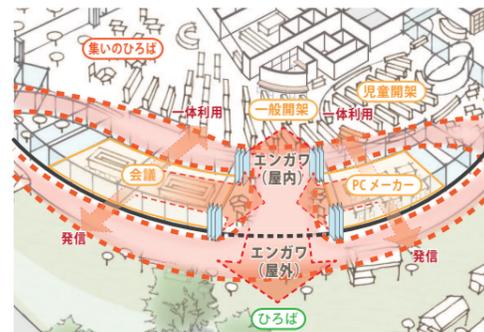
段階的な「音のゾーニング」



- 「サポートエリア」から「機能空間」、「エンガワ空間」へと段階的な音のゾーニングを創ります。賑わいと、静寂環境がグラデーションに連続する平面構成となります。
- 「多目的ホール」、「図書館」、「子育て」は利用規模や機能要求（音や光環境）に応じた機能配置とします。

POINT.3

『みんなのエンガワ』

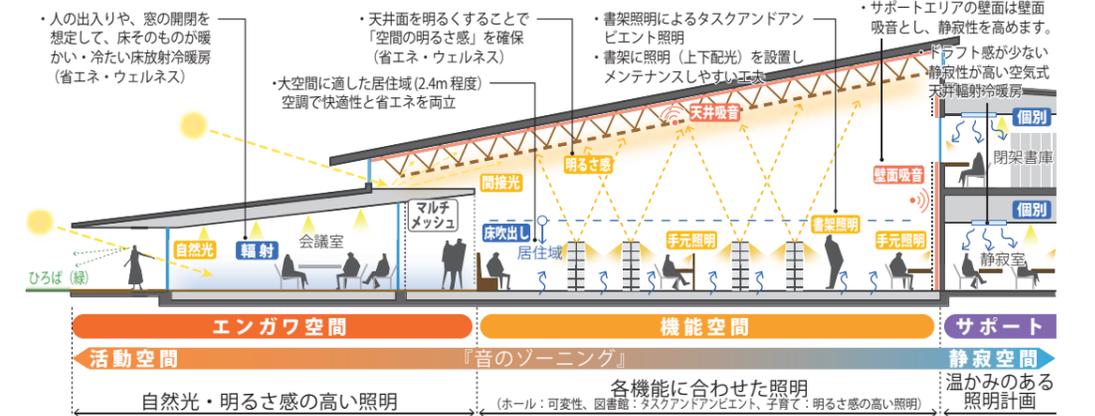


- 『みんなのエンガワ』は「ひろば」と「インテリア」の間にある内外をつなぐ動線空間・賑わい空間となります。
- エンガワ空間を機能空間（ホール・図書館・子育て）に寄り添うように配置し、それぞれの機能・活動の「見る～見られる」関係が交流や協働を高めます。

機能融合を促す基本的な考え方

5 利用しやすい施設の考え方 利用者の過ごし方に応じた環境づくり

- 「3つの層状構成」を活かしながら、図書館や多目的ホール、子育てなどの各スペースに応じて熱・光・音環境を整えることで、利用者に最適で使いやすい環境づくりを行います。
- 特に、サポートエリアを中心に天井や壁で吸音をすることで、静かな空間をつくりながら、エンガワ空間は自然光を取り入れた活動的な空間とするなど、「3つの層状構成」＝機能配置と整合した快適環境を実現します。



使いやすい施設づくりの工夫